

自己評価及び外部評価票(あすなる窪田) 表紙

1 自己評価及び外部評価結果

(あすなる 窪田)

事業所番号	0690400080		
法人名	あすなるの会		
事業所名	グループホームあすなる窪田		
所在地	山形県 米沢市 窪田町窪田1421-1		
自己評価作成日	平成23年8月30日	開設年月日	平成21年6月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常のさまざまな出来事で喜びや、生きがいを見出して頂けるようお一人お一人の思いを汲めるように関わり、日々職員と利用者さんとで悪戦苦闘しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

もと民家を利用し家族的な雰囲気のもと利用者へのケアが行われている。近所との交流も徐々に前進しており、夏祭りには地域の人の参加ももらい交流を深めている。又、法人の理念も作成され法人全体としての目指す方向も明確となってきており、今後更に充実したケアが期待できる事業所である。

事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株) 福祉工房		
所在地	〒981-0943 仙台市青葉区国見1丁目19番6号-2F		
訪問調査日	平成23年9月27日	評価結果決定日	平成23年10月21日

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GHの理念については、職員がみんなで作り、それぞれの利用者さん側に立った考え方をする様に共有している。又、新たにNPO理念については毎朝読み上げている。迷いや、悩んだ時は理念に立ち戻り振り返りを行っている。	NPO法人あすなる会としての理念を全事業所で唱和し、職員に周知しようとしている。事業所の理念は以前に職員間で話し合いの下作成されたが、ご法人の新たな理念に基づく見直しを現在考えている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	美容院・郵便局、地域の開業医など必要に応じて出向き、関わりを持つ事は出来てはいるものの、まだまだ交流する工夫が必要。今回初めて地域の方々に参加して頂き夏祭りを開催する事が出来ました。一歩前進したのではないかと考えています。	町内会には参加していないが、日常、郵便局や美容院には出かけている。ヤクルト販売、パン屋等が来て入居者は買い物をしている。また事業所で夏まつりを開催し、近所の人たちに呼びかけ地域交流を図っている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くの郵便局に通う利用者が居り、迷惑等無いか事前にGHで生活している方という事を理解して頂き、何か有ったら連絡していただけるよう対応しています。			
4	(3)	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行なえるような体制なっています。理念の振り返りの報告をさせて頂いたり、又、家族からは要望なども多く出して頂けるようになり、ケアの充実を図っている。	概ね2ヶ月に1回の開催が定期的になってきている。事業所からの報告、参加者からの質問、意見、要望等意見交換ができるように、配慮している。老人会の会長の参加も地域との繋がりを更に強める為老人会の会長にも参加を働きか		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の給付をうけている方がいらっしゃいますので、相談に出向いたり、来所して頂いたりと協力していただいている。	生活保護受給者が何人かいるので、来所した時に役所の担当と状況を話している。又家族の生活の問題等相談されていたので、話し合う機会が増えている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	夜間以外は施錠していないが、ハード面で玄関を常に見守る事が出来ず、又、玄関から自由に出入りする方がいらっしゃいますので、昨年末にセンサーを設置しました。	玄関が死角で人の出入がわからないという環境から、昨年センサーを設置した。入居者には外出する時は職員に話すように言っているが、無断で外出することもあり、外出の気配を感じたら声掛けしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止について研修委員会で年間スケジュールに組み込まれており、今後研修予定です。職員自体気づかないうちに抑圧的な言葉になったりしている場面が見受けられる事もあるのが現状です。今後自分自身を客観的に見つめ直す必要があると感じています。又、ストレスマネジメントの研修も予定されています。			
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している利用者が入所されており、おおまかには分かっているが詳しい内容については理解していないのが現状。後見人の実習生の方GHで実習をされていたので、今までよりは身近に感じてはいますが今後理解を深めたいと考えております。			
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分説明し理解して頂いていると思います。又、変更等があった場合についても説明し、承認を頂いている。			
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所時になどに話を聞く機会を持っている。介護相談員が定期的に来所されますが、率直な意見には喜びも有るが反省すべき点もあり、回覧し職員全員には周知を勤めている。	来所した時や、家族が受診同行した時に話を聞くようにしている。介護相談員が来所して利用者と話をして、意見や希望を聞いてその報告でサービスの質向上の参考にしている。		
11		運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者、代表者は面談の機会を持ち意見を聞いてはいるものの反映までには至っていない。			
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	遣り甲斐、働き易い職場作りに取り組んで頂いているが、それが本当に職員にとっての良い条件になっているのかはまだ、取り組みの途中なので今後期待している。			
13	(7)	職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は年4回実施し職員全員が参加出来るようにしている。又、外部の研修にも定期的に参加させていただいている。研修内容については、復命書の提出により職員全員に報告している。	法人で研修委員会をつくり、各事業所から代表者が参加して年間計画を作成し、全職員が参加できるようになっている。外部研修にも参加して伝達研修で他の職員に情報提供している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH協議会の定期的な会合に出向き交流を図っている。又、交換実習に参加する事により情報交換が出来自分のGHに足りない部分など参考にしケアの向上に努めている。	山形県のグループホーム協議会に参加して他の事業所の人達と交流、意見交換をしている。交換実習にも参加して、日々のサービスの参考にしている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始の前のアセスメント、開始してからの状況などを十分に把握し、傾聴し不安を取り除く関わりを持ち、信頼関係を築けるよ努力している。			
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの相談で不安な部分について十分理解をして頂けるよう説明している。要望についても受け入れて納得して頂けているよう取り組んでいる。			
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にケースシート等情報を職員全員に確認して貰い、本当にその方がGHが適切であるのか全員で検討している。			
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に、双方向的な関係を意識して関わるよう努力している。			
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度の近況報告で家族に報告し、状況を把握して頂いています。又、その都度必要な時には電話等で報告し、来所時にも報告をさせて頂いている。			
20		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等が面会し易い雰囲気を作っています。又、なじみの美容院や、かかりつけ医への受診などが出来ている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	批判されたり、孤立しないように食席を変えたり、して環境を整えている。			
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所され、その後亡くなられた方へ職員利用者でお線香をあげに出向いたり、在宅に戻られた方についても、利用者さんとお茶のみに出かけたりしている。その方のケアマネとも情報交換をし見守っている。			
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者会議、モニタリング、評価、日常の申し送り等にて、希望や意向を汲み取る努力をしている。	日常の申し送りや利用者との話から希望、意向をくみ取り、会議で情報を共有している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	比較的新しい利用者の家族来所時にゆっくり話す機会が有り、その話の中で趣味・特技などの情報を得て、支援の仕方が変わったという事例があります。これからも今までの生活の継続できるよう把握に努めたい。			
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の一日のリズムに関しては、把握し支援している。出来る事出来ない事を把握しているものの過剰な支援が見られる事もあるので気を付けたい。			
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス内容について、モニタリングをして変更している。問題点改善の必要性について意識的に関わり、ケアに勤めている。家族が来所されて時には意見を聞くようにしているが現状維持という意見が多く、意見要望は一部。	3ヶ月毎にモニタリングが実施されている。ケアプランの変更は身体的変化がある時は見直している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記入量が利用者、職員により偏りが生じている。見直しを図り、共有しなければならないポイントの記録の充実につなげたい。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型住宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個人の地域資源については、まだまだ把握の努力が必要。			
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続をしている。状況報告書等により情報交換を図っている。	かかりつけ医の受診は家族が行なっている。家族が出来ない時は事業所で支援している。家族が同行する時は日頃の状況の報告書で情報を提供している。緊急時の対応がかかりつけ医は遠いので不安がある	利用者、家族が安心できるように、事業所としての主治医や訪問看護ステーションとの関係を検討していくことが望まれる。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人内の看護職員に血圧が高い方の測定をお願いしたり、相談をしているが、まだまだ関わりが薄く、今後回数を増やしていきたい。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーの提供をし積極的に情報を伝えている。又、入院中の様子も医療機関から直接情報を得るようにしている。			
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	個人のどう終末期を迎えたいかについての把握が出来ていない。今の段階では看取りができない状況にある事を家族に理解して頂き、今後についての話し合いの場を持たなければと考えている。	重度化、終末期をどう迎えるか、現事業所では、看取りができる状況ではないこと、事業所が対応できるケアについて説明し確認書を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを含めた救急対応、処置について一部の職員は研修を受けている。受けていてもその場になったら落ち着いた対応が出来るかは不安である。法人の災害対策委員会が発足しているので今後内外の研修を予定している。			
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策委員会を立ち上げ、他事業所との連携を図り、訓練をしている。地域の協力体制については、夏祭りの時に話をさせて頂いたが、具体的な内容ではなかったので今後話しを進めていきたい。	各事業所の代表で災害対策委員会を立ち上げ、防災訓練をしている。8月は消防署立会いの下で、避難訓練を行った。9月は通報、連絡訓練を予定している。	事業所のマニュアル(防災計画書)は火災想定のマニュアルであり、震災時等のマニュアルも作成し、利用者、家族、運営推進委員会で再確認が望まれる。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	なるべく目に入らないよう記録等に努めている。職員間での話しの中では配慮に欠ける場面が見られる事はある。	受診後の情報報告や入浴時の様子等馴れから配慮が欠ける場面がある。その都度注意をしている。法人内の研修等の課題になっている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を提示し自己決定をして貰えるよう支援している。反面思いを表現できない利用者さんの汲む事無く一部の利用者によって決定されてしまう事も多い。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	マイペースに自分の生活のリズムをもって過ごされて居る方も居られますが、流されるまま一日を送っているのではないかと反省する場面も多々ある。どのように過ごしたいのか生活歴などにより、見出せるような工夫が必要。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を選び着て頂いたり、なじみの美容院に出かけられるよう支援している。			
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を購入したり、メニューを決めたり調理をしたりと、一人一人役割は違っても一緒に出来ている。片付けも利用者がやってくれている。	買い物、メニューを考えたり、下膳、洗い物と各人がかわりを持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量については個別に対応している。水分の摂取が難しい方にはゼリーなどをお出ししたり、夜間居室にペットボトルを置いたりしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後必ず行なっている。声かけをしたり、一緒に歯磨きをしたり、その方に合わせた対応をしている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中はなるべく布パンで対応しトイレで排泄していただけるよう支援している。	自立している人が多く、日中は布パンを使用している。声掛けで自立支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時と毎食後に特に朝食後はゆっくり座って貰えるよう工夫している。下剤だけに頼る事無く、ヤクルトやお茶、食事についても食物繊維の多いものを取り入れる工夫をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日、時間を設定せず、その方の希望やタイミングで対応している。	入浴は毎日できる体制である。仲良しの関係で2人で入浴している。声掛け次第で殆どの利用者が入浴している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の環境を整える為室温などはこまめにチェックし、又、日中の生活の充実を図り安眠に働きかけている。夜間着に着替えられない方が居り、今後改善が必要。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回処方箋をチェックし、職員全員が利用者の薬の理解を徹底している。なぜその薬が処方されているのかを把握するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を知り、その方が得意とする事が分かっていても支援出来ておらず一部に限られてしまっている。個別に対応出来るよう工夫が必要。			
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により、日常的に外出は行なえている。季節の花を見学したり、外食などにも出かけている。家族さんとの外出については一部となっている。	天気のいい日は散歩や買い物に行く、季節の花(長井のあやめ等)これからは川西のダリアを観に行くのを予定している。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設で預かり、外出した時に持ち出し必要があれば購入し小遣帳に自分で記入してもらっている。			
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要な時に支援している。			
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には庭から摘んできた花が生けられている。浴室、脱衣所などはとても暑くて入浴後発汗が多い。台所が一緒の空間で狭い為とても音を気にする方が居る。	あまり広くない居間と台所であるが、窓が大きく田んぼが見え季節感を十分感じることができる。玄関には入居者の家族が持って来てくれた花が飾っている。事業所のマスコットである犬をかわいがっている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関のソファで気の合う利用者さんが話しをされている場面を良く目にする。利用者さんの関係作りの為、食席の工夫をしたりしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用していた使い馴れた物を持参していただいている。	手仕事が得意な(レース編み)人のお部屋はレースで飾られ、整理整頓にこだわっている人のお部屋は綺麗に整頓されている、個々にその人らしく工夫が見られる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事出来ない事の把握をした上で居室にホウキとちりとりを置き、いつでも使えるようにしたり、ポットも安全な場所に置き飲みたい時に自分で飲めるような工夫をしている。		